

<ひとこと> 友人の結婚式に出席するため、紅葉色づく京都へ。夫と子どもを忘れず、旅行を楽しみました (笑)

平成24年度第3回柏市自立支援協議会

今回の議題は、

1. 防災について 2. 各部会の報告 3. 障害者虐待防止センターの報告などでした。

1. 「柏市の防災計画を作る会」の進捗状況報告し、自立支援協議会を通して集めた各障害団体の意見の反映がどうなっているかなどについての確認などしつつ、まだ計画途上なので、もう少し全体像が見えて、次回の自立支援協議会でも検討する予定です。防災福祉 K-Net などの活用がどうしたらうまくいくのか、手助けする側される側の双方から考えていく必要があります。まず登録をすすめようとか、自分の情報(緊急連絡先や障害の特性、薬のことなど)を保管し、いざというときに活用できるツール(K-Net でも、筒に入れて冷蔵庫に保管しておくもの「緊急医療情報セット」を使用している)があるとよいし、必要な人は多いのでは?などの意見も出されました。また、自立支援協議会関係だけでなく、内部障害も含め、さまざまな身体障害や、団体等には属さない障害者の存在も多くあることから、できる限りの聞き取り(アンケート)をする必要があると思います。今年度は予算がないとのことで、不測の災害を考えると急ぎたいところですが、今のところは来年度実施になりそうです。

2. i はたらく部会、ii こども部会 iii 相談支援部会

i 企業担当者に障害者の理解を深めてもらうよう福祉の事業所ツアーの企画や、工賃について統一した基準は不可能だが、各事業所で基準の明確化を図ること、それらのためにも事業所間の情報の共有や提供がスムーズに行えるようにメーリングリストの活用も検討したい。

ii 課題調整会議、早期支援会議、事業担当者会議の3つの会議体で活動しており、次の会議開催が自立支援協議会後であるため、次回の報告となる。

iii 事例を通じてサービス利用計画作成に至るプロセス(インテーク、計画の立案、個別支援会議等) ロールプレイで行った。また新たな相談支援事業者も増える中での情報交換、事業所訪問もかねての会議開催など、まず事業所同士が知り合うことも目的としている。今後は各部会から課題と提言をまとめていただく予定。

3. 10月1日より障害者虐待防止センターが障害福祉課に設置された。2名が専任として配置されている。日中は専用の電話(7168-1041)で対応。時間外や休日は市役所の守衛室で受け付け、担当職員へ連絡が行く形で24時間対応。 という報告がありました。

自立支援協議会ではサービスの質や量の問題、人材育成など、自立支援法に基づくことに力点が置かれることは必然ですが、障がい当事者や家族、特にどこにも所属していない人の生活への想像力は欠かせないのではと思います。

生活クラブ地域づくりフォーラム2012

～みんながつながるくらしをデザイン～

10月6日、千葉県教育会館にて開催されました。基調講演は湯浅誠さん。日本の貧困問題の背景、生活支援戦略などから「誰もが排除されることなく安心して暮らせる社会をつくる」ための、国の動きを話されました。生活保護と雇用対策の網だけでは貧困の状態から抜け出せない場合があり、そこを第二のセーフティネットが補っていくというイメージです。具体的には、入り口に包括的かつ伴走型な総合相談支援センター(パーソナル・サポート)があり、出口に中間的就労があります。

社会福祉法人生活クラブでは、中間的就労としてユニバーサル就労があります。文字通り、さまざまな理由で働きづらい状態にある方に、多様な働き方を作り出していくとする取り組みです。『はたらくたいのにはたらくにくいすべての人』に働く場所をつくるには、受け入れ側の努力や工夫が必要です。しかし業務分解することで、職員に新たな業務をする時間が生まれること、職場全体の仕事の質が向上するなどのメリットがあります。また、内部就労支援部署による継続支援が、職場定着の大きな力となっているようです。取り組みは法人内に浸透しつつあります。働く場が法人をこえて広がっていくことを期待します。

湯浅さんは住居の問題について「DV・犯罪・ホームレス・自殺など、それぞれ住居問題が共通しているが、共に声をあげたことがない。民間の縦割りという課題」という言葉が印象的でした。それぞれの課題としてではなく(領域は違えど)共通した問題として、声をあげる機会がないように思います。私たちの日々の相談の中でも、住居問題に頭を抱えることが少なくありません。パーソナル・サポートの役割であると感じ、機会があるたびに声をあげるようにしています。

障がい理解シンポジウム2012in柏

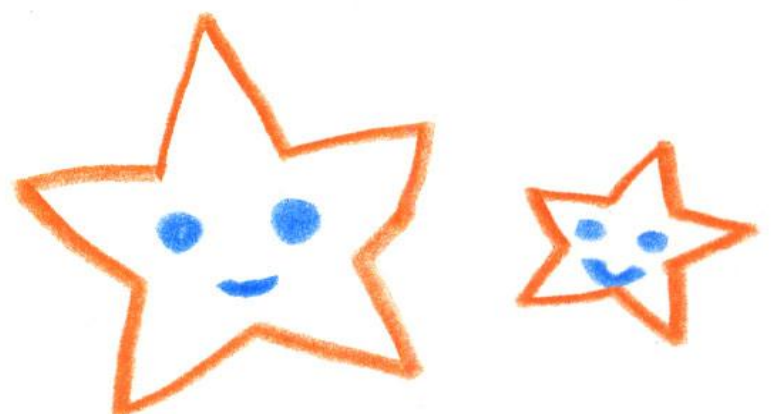
10月15日、障がい理解推進チーム Wa's の主催により、「障がい理解シンポジウム 2012 in 柏」が開催されました。テーマは、「障がいのある人や家族の孤立について」。

障がいがある人や家族は孤立してしまいがちです。学校、社会、地域、友人や親せきなど…。どうしてこのような事が起こるのか? 孤立しないためにはどのような事が必要なのか?

この課題について、グループワークが行なわれました。参加者は、福祉施設職員や、障害を持つ家族の方、障がいをお持ちの方自身など、色々な立場の方たちが集まりました。

結論は、障がいに対する理解や受容、教育等を含めた社会の変化など、色々な面での改革が必要という結果が出ました。

一人ひとりが、どうすればいいのか、考えてみることから変わっていくのです。



かしわ地域若者サポートステーション 高校中退者等アウトリーチ事業



今回はかしわ地域若者サポートステーションの高校中退者等アウトリーチ事業に取材に行きました。

アウトリーチ（訪問支援）事業とはどんな事業ですか？

訪問担当の相談員が、高校やご自宅を訪問し、中退、不登校、進路の悩みなどを抱える方のご相談に応じます。

若者が自己決定していけるように、学校教育からサポステへ切れ目のない支援をする事業です。

柏の高校中退者等アウトリーチ事業（厚生労働省委託事業）は、今年度の4月より始まりました。現在、不登校を中心に多くの相談が来ています。

対象者は、高校中退・中学校卒業後概ね1年以内で進路が決まっていない方や高校在学中の方です。（※上記以外の方は若者サポートステーションにて対応します。）

どのように支援しているのですか？

- ・高校中退者等を対象にした自宅への訪問支援など
- ・不登校・長期欠席者等への個別支援（家庭訪問等）
- ・進路・就職などの悩み相談
- ・在校生を対象とした実践的キャリア教育プログラムの提供など…です。



最後にひとことお願いします。

千葉県のデータでは、高校中退者7万人、不登校13万人がいて、高校に行かなくなったり、中退してしまったりする原因のトップは、「高校生活に熱意がない」です。集団行動が苦手だったり、コミュニケーションをとるのが苦手な子は、通信制の学校を利用する事が多く、また最近では、家庭の経済事情から定時制高校に行く子も増えてきました。

定時制高校は、学校を卒業する頃には多くの生徒が中退してしまう事がデータから確認できます。

学校を卒業して社会に出ても、何をしたいか分からない子も多くなっています。そうした背景から、学校卒業後にニートになってしまうリスクも高くなってしまいます。この様な流れから、中退する前に、在学中に若者サポートステーション（高校中退者等アウトリーチ事業）がある事を知ってもらい、利用してもらいたい。

実際に訪問をして、学校関係者や、親や本人と話をし、どうしたらいいかを考えていくことで、中退前に利用を呼び掛けて、中退を防げたり、就職など（就職のための研修プログラムや、就職後のサポートも行っていきます。）と一緒に考えていく事を目指しています。



～お問い合わせ先～
 <住所>
 柏市柏下6-6-1
 柏市勤労会館内
 <TEL & FAX>
 TEL : 04-7100-1940
 FAX : 04-7100-1950
 <E-mail>
 E-mail : hello@k-saposute.com

おしらせ

◇こちらのコーナーへ掲載希望の方は、あいネット（電話：04-7165-8707 FAX：04-7165-8709）まで◇

講演名	日時	場所	費用	申込み	問合せ先他
普通ってなんだろう？ 障害ってなんだろう？ 当事者・父・母の立場から、未来へ ～それぞれの「生きづらさ」を超えて～ 講師：大信田 秀明氏 アズ直子氏 松戸みゆき氏	平成 24 年 11/25（日） 13:00 ～15:30 (開場 13:00)	T&T 御徒町ビル 4F (旧：わかばビル) (東京都台東区台 東 4-8-5)	2000 円	必要	申し込み先： FAX: 045-861-4712 Mail: myuulovepeace9@gmail.com 申込用紙はあいネットにあります 主催：こころオフィス アオイトリオフィス
高次脳機能障害者への就労支援 ～効果的な支援を考える～ 講師：田谷 勝夫氏 (障害者職業総合センター特別研究員)	平成 24 年 12/1(土) 13:30 ～16:30	柏市中央公民館 5階講堂 (柏市柏 5-8-12)	無料	必要 11月26日 (必着)	申し込み先： ハートフルワーク柏 TEL & FAX : 04-7163-9353 Mail: info-hrtf@city.kashiwa.lg.jp